

# 海の樹氷

## バスセルトンジェティー

西オーストラリア  
vol\*01

Photo & Text : **Takaji Ochi**  
Special Thanks : **Dive Shed , Dive & Safari West Australia**  
Design : **Chimi**

ダイビング雑誌での西オーストラリア特集といえば  
数千キロも離れているにも関わらず  
全て一度に紹介されるため  
メインとなるエクスマスのジンベエザメ  
モンキーマイヤやロッキンハムのイルカ、パースのアシカ  
エスペランスのリーフィーシードラゴンなどの  
メインキャラクターの印象が強くなりすぎて  
もっと面白いポイントがあるのに、もったいない。  
そんな思いから、WEB-LUEでは  
これから、西オーストラリアにある  
かなり個性的で面白いダイビングディステーションを  
数回の特集に分けて紹介していく。

まず最初は、映画「千と千尋の神隠し」で有名になった  
バスセルトンジェティーと  
数百匹のハリセンボンが群れる、スワンレックだ。

海の樹氷 [西オーストラリア] vol\*01  
バスセルトンジェティー

Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.whats-wa.com/index.php?jump=1>

# 「千と千尋の神隠し」のワンシーンに登場すると噂される バッセルトンジェティー

ボートからエントリーすると、目の前に鮮やかな新緑を感じさせる、海草の草原が広がる。その草原をゆっくりと目的の方向へと進むと、ホワイトトラバリア、サザンイエローテールスカッドと呼ばれるアジの群れが、目の前に立ちはだかる。僕は、その銀色に光輝く群れをかき分けるように進み、ジェティー（栈橋）の下を目指す。

そこには、まるで、樹氷の中に迷いこんでしまったかのような不思議で、幻想的な海中景観が広がっていた。「こんな光景は今まで見たことがない」。僕は、樹氷の林を彷徨うように、ふらふらと浮遊しながら、上を見上げては、瞳を輝かせていた。

バッセルトンジェティーは、西オーストラリアの玄関

口、パースから南へ下ること約275kmにある。遠浅の海に、長く長く伸びた老朽化した木製の栈橋下が、地元ダイバーたちに人気のダイビングスポットになっている。元来、ジェティーダイブは、オーストラリアでは人気のダイビング。エスペランサやエクスマス、ブルームなどでもジェティーダイブを楽しむことができる。

バッセルトンジェティーは、全長1841m。木製の栈橋としては南半球最長の長さを誇る。1865年に建設が開始され、全てが完成するまでに95年の歳月を要した。捕鯨船などへの資材運搬用に利用されていたこの栈橋上には、1911年から鉄道が敷設された。今は使用されていないが、数年前までは観光用に利用され、この小

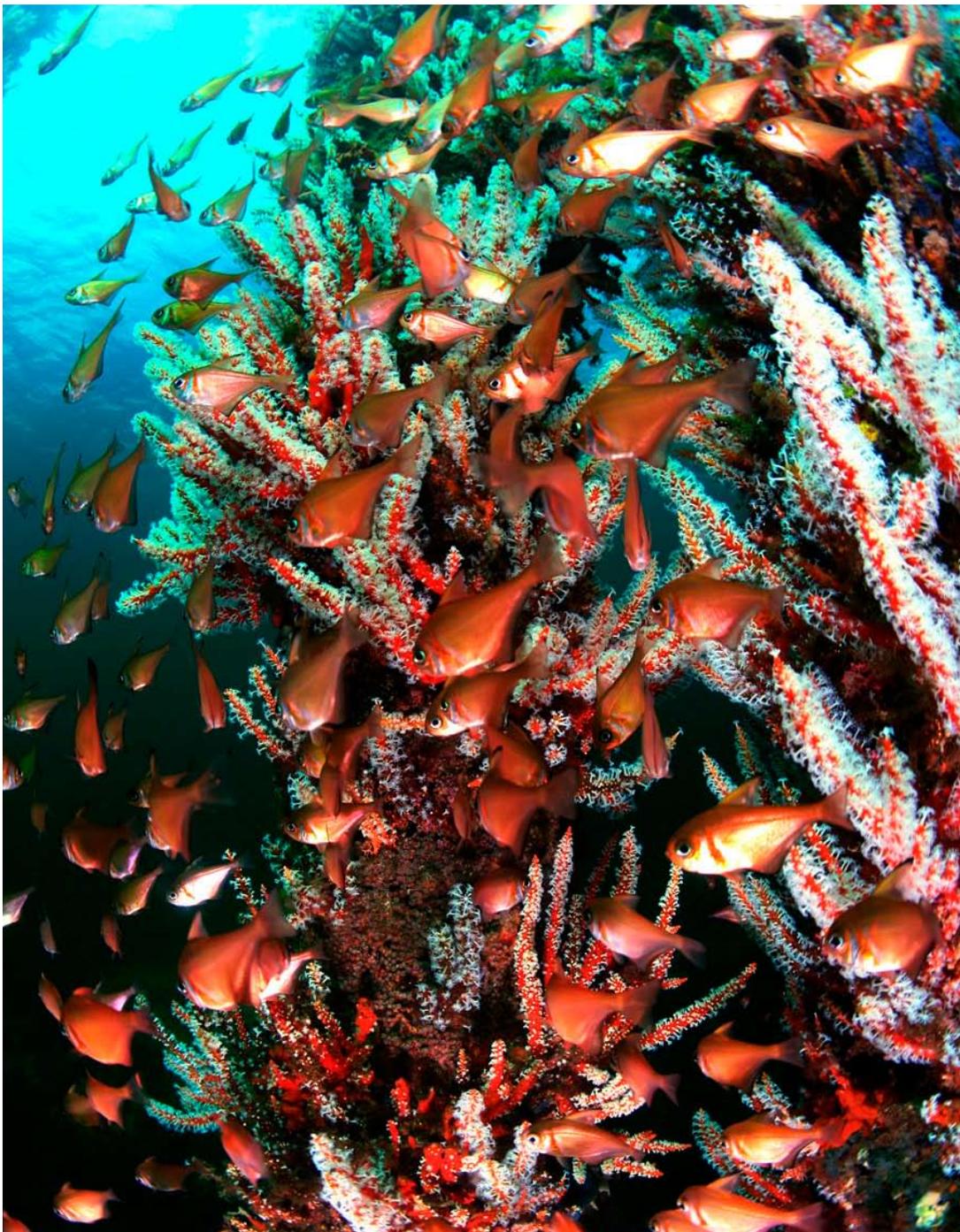
さな鉄道に乗って、ジェティー先端までダイビングに行っていたこともあるそうだ。

この海の上を走る鉄道の風景が、「千と千尋の神隠し」の映画の一シーンに登場していると噂されていることは、こちらに住む日本人の間では、案外有名な話。

海岸線にボツンとあり、長く長く海に突き出た風景でさえ不思議な感じなのに、そんな噂までであると、益々このジェティーに興味を沸いてくる。しかも、その下を潜ると、さらに不思議で幻想的な海中景観が広がっているのだから、僕の空想癖はどんどんと助長されていくわけだ。

(左)南半球最長の木造栈橋は、全長1841m。入場券を購入して、先端まで行くことができる。先端には、別料金で海中展望台で、海中の中を見学することもできる  
(右)サザンイエローテールスカッドの群れが、支柱の森を覆い尽くす





話を海中に戻す。何故「樹氷のような」と表現したか  
とえば、この老朽化したジェティーを支える何本もの  
支柱には、おびただしいまでのカラフルなスポンジやソ  
フトコーラルが付着して、元の姿がわからないほどに覆  
いつくされているからだ。そして、そのソフトコーラルの白  
いポリプが全開に開いていると、支柱はまるで雪を被っ  
ているかのような美しい姿を見せてくれる。

中には、朽ち果てて横倒しになっている支柱もあり、  
それを支えるように、大きな鎖が張り巡らされ、それにも  
沢山の付着物がついている。人工的に作られ、そこに  
自然が後から手を加えることで、人間と自然によって作  
られた巨大な共同芸術作品のように見える。

そんな幻想的な水中景観を楽しむだけでも、僕には  
十分面白いのだけど、ここには、南西オーストラリアでし  
か見られない、固有種も多く生息している、僕たちから  
見るとかなり奇妙な形をしている。そんな不思議な生き  
物たちが、この景観の中をうごめいているだけでも、さら  
に僕の空想は広がっていく。

滑稽な表情を見せてくれるのは、ショウズカウフィッ  
シュ、ホワイトバレットボックスフィッシュ、ウエスターン  
スムースボックスフィッシュなど、多彩な種類のハコフグた  
ちや、一科一属一種のオールドワイフなどが、カラフルな  
支柱の林をうろちょろと泳ぎまわる。

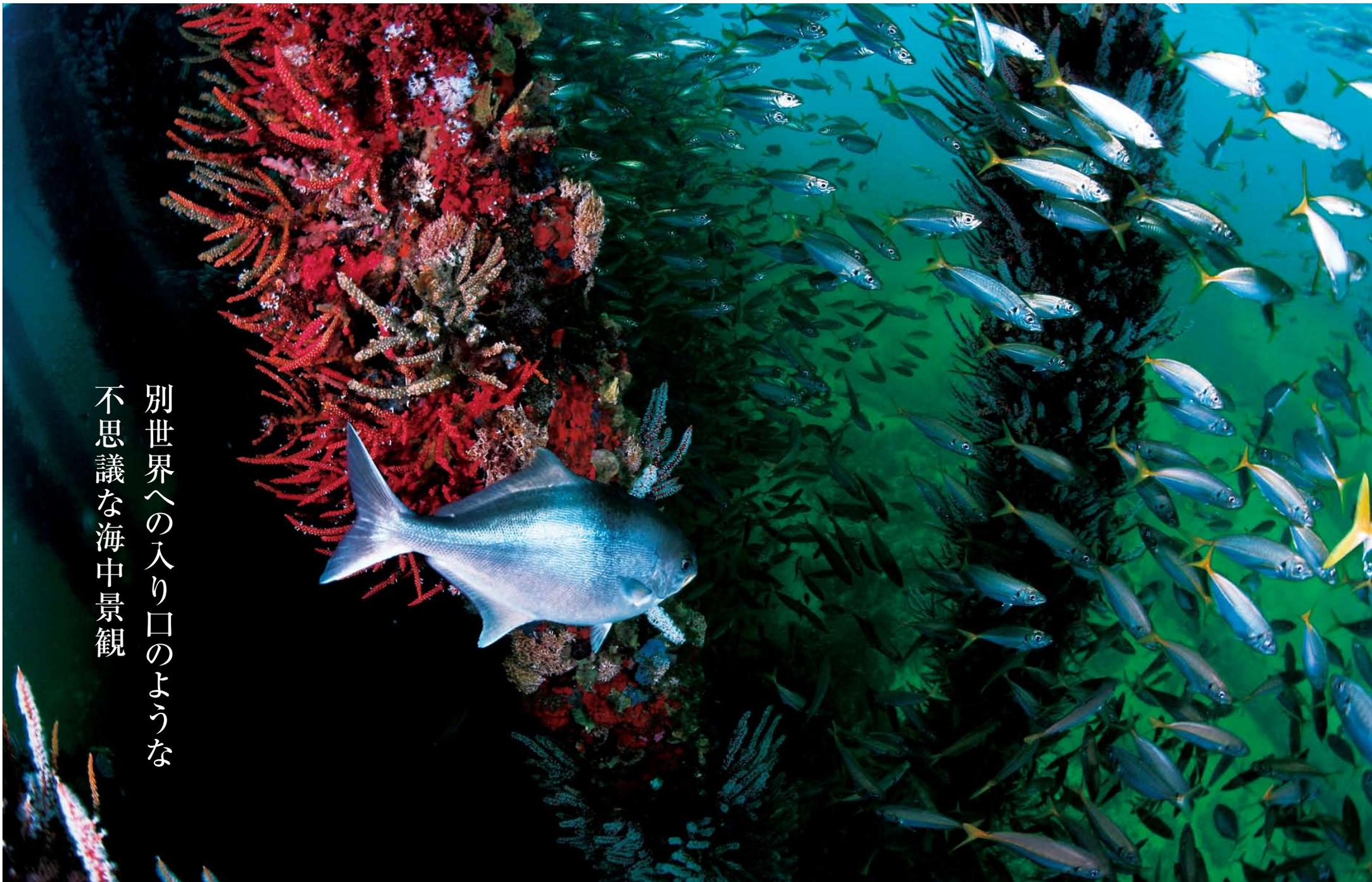
支柱に群がるように生息  
していたハタンボの一種

ダイビングボートが出る港からは、ほんの10分の距  
離、水深はこれだけ沖に張り出した栈橋にも関わらずわ  
ずか8m。夏の時期の水温は25度前後。熱帯の海に  
慣れた僕には少し寒い水温だけど、この景観を見てい  
ると何時間でも潜っていられそうな気がする。

ボートのスキッパーからは、「ダイビングの制限時間は  
50分だけど、最初にエントリーして最後にエキジットして  
いいよ」と言われていたので、僕は毎回、喜び勇んで海  
に飛び込み、後ろ髪引かれる思いで、エキジットした。1  
本の平均ダイブタイムは80分。それでもまだ潜り足りな  
い。バッセルトンジェティーは、僕にとって、それくらい面  
白くて不思議な場所だった。



(上)とところどころに朽ち果てた支柱があり、危険を促す看板が立てられている  
(下)西オーストラリアで人気の魚の代表格、オールドワイフも群れていた



別世界への入り口のような  
不思議な海中景観

海の樹氷の中は、魚たちの格好の隠れ場所

海の樹氷 [西オーストラリア] vol.01  
バッセルトンジェティー  
Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.whats-wa.com/index.php?jump=1> 関連情報HPへ

スワンレックの船首部分に群れるハリセンボンの群れ。  
なんだか妙に癒される

## 船首にハリセンボンが群れているHMAS スワンレック

バッセルトンからポートでジェオグラフィーベイを西進すること約30分。地名で言うとダンスボローの沖合いには、1997年に沈められた、元オーストラリア海軍のフリゲート艦HMASスワンが沈んでいる。水深30mに沈むこのレックは、全長113m、全高21m、全幅14m。

このポイントには、7年前にも一度潜ったことがある。そのときも、ダイブコーディネーターの高島さんから「このハリセンボンの群れはすごいですよ!」と言われて、それだけを目的に潜った。その頃は、僕も「ハリセンボンの群れなんてすごい!」とか思ったのだけど、それからしばらくして、沖縄でハリセンボンが異常発生したときがあって、そのときには、ハリセンボンが群れるのなんて、別に珍しいものでもなんでもない。と言われるようになっていた。

しかし、このスワンレックに群れるハリセンボンの数は数百。しかも個体のサイズも大きい。おまけに、レックのシルエットをバックに撮影できるので、最初に潜ったときも撮影が楽しかったし、今回も面白かった。

何が面白いかと言えば、ハリセンボンたちの逃げ方。通常魚の群れは、先導する魚を先頭に、見事に統率の取れた動きをするのだけど、このハリセンボン、まったくそんな統率の取れた動きをしようとしな。撮影のために群れを追い込もうとすると、自分勝手に向きを変え、周囲に同調する気がまったくなさそう。しま

いには、同じ方向を向いて正面からゴツンとぶつかり合ったり、どっちに行っているのか途方に暮れて、同じ場所をクルクル回転してるだけの固体までいる。

顔がかわいらしいだけに「なんだよ〜お前ら〜、も〜、バカだな〜」みたいな愛着心が芽生えてしまう。だから、撮影が目的にも関わらず、そんな愛くるしい動きを見たくて、意味も無く追い込みをかけてみたり…。

なんか、外洋の水深30m付近にいるにも関わらず、超心が和む。そんなハリセンボンたちが、いつも船首に群れていてくれる。もう、それだけで幸せ。この沈船に潜った甲斐があるというものだ。

固体数は、明らかに7年前よりも増殖していた。常に増殖し続けるとは限らないだろうけど、何故ここにこんなに群れているのかが疑問だ。





(左上) ボートでこのポイントを潜る場合は、先端からエントリーして支柱の中を泳ぐスタイル  
 (左下) 棧橋の付け根には、博物館兼おみやげやさんがあって、ここで入場料を支払って、ジェティーを見学する



棧橋の下を優雅に泳ぐダイバー。鎖は支柱が倒れないように支えるために装着されている

海の樹氷 [西オーストラリア] vol.01  
 バッセルトンジェティー  
 Web-lue 2008. Spring

ダイビングを楽しんだ後は  
アワビ獲りとアワビステーキを堪能！



(写真上左より)  
早速アワビをゲット！  
アワビの生息する岩場に到着。ほんの数十センチの海底にアワビは生息。  
今回取れたアワビの数は50個。  
一人10個まで採ることができる

アワビが沢山生息している岩場を求めて、ビーチを歩く

今回お世話になった、バッセルトンのダイブシェッドでは、オーストラリア南海岸にあるシークレットポイントでのアワビ取りを楽しませてくれる。ダイビング終了後、町から車で40分ほど走った美しいビーチに車を止めて、岩場で自らアワビを獲る。

それを持ち帰って、レストランの中庭に常設しているバーベキュースペースで、刺身やアワビステーキを堪能するわけだ。

パース近郊でも、25ドル支払って、誰でもアワビの漁業権を購入することができるのだけど、期間が限りなく限定されている。しかし、南に面した海岸であれば、ライセンスさえ持っていれば、1年中アワビ取りが可能なのだそう。

もちろん、シークレットポイントのメインの漁業権はダイ

ブシェッドのオーナーが所有しているから、彼と一緒に行かないといけないのだけど。

シークレットポイントのアワビは、足のつくような水深の浅いポイントにうじゃうじゃアワビがいる。僕は、カメラをほおりっぱなしで、アワビ獲りに専念。でも浅いからと言って、夢中になって獲っていると、はがしたアワビが岩の隙間に落ちこちて、維持になって拾おうとしたら、スノーケルが岩に挟まって顔が上げられず、あやうく溺れそうになったこともあった。

自分で獲ったアワビはまた格別の味。このバッセルトンの近くは、マーガレットリバーといって、美味しいワインの産地でもあり、ワイナリーが点在している。そこで美味しいワインを手に入れて、アワビステーキをほお張る！もう、最高に幸せ。

バッセルトンであれば、パースから日帰りで行くこともできる。アワビ獲りもしたいのであれば、1泊2日がお勧め。そんな近場で面白いダイビングサイト+アワビ獲り。パースに来たら、是非堪能してみてもいいだろう。



宿泊は、自炊のできるコンドミニアムタイプのバンガローで



パース  
ダンスボロー

バッセルトン エスペランス

# インフォメーション

マーガレットリバーは、西オーストラリアでの有数のワインの産地



ワイナリーでは、ワインの試飲も楽しめる



自分たちで食事を作って、楽しむことができる



室内は、アットホームな雰囲気なサンディービーチリゾート

パースからアワビ獲りつきの、バッセルトンジェティー、スワンレックへのツアーを開催しているのは、パース歴15年の高島さん率いる、ダイブ&サファリ・ウエストオーストラリア。ダイビング機材や、自炊用の機材をつんだバスでバッセルトンへ。そこでは、地元ダイビングサービス・ダイブシェッドのポートを利用して、ジェティー、スワンレックへと足を伸ばす。



バッセルトンジェティー&スワンレックツアーをパースから開催している **ダイブ&サファリウエストオーストラリア**  
<http://www.whats-wa.com/modules/dive/index.php>

海の樹氷 [西オーストラリア] vol.01  
バッセルトンジェティー  
Web-lue 2008. Spring

Information Link  <http://www.whats-wa.com/index.php?jump=1>